三田市公共施設マネジメント推進に向けた基本方針（案）に対する市民意見の募集結果と意見に対する市の考え方について

１　実施概要及び結果

⑴ 実施期間

平成３０年１月５日（金）から平成３０年１０月１日（月）まで

⑵ 閲覧方法

① 市役所市民情報ひろばでの閲覧（市役所本庁舎１階）

② 公共施設マネジメント推進課（平成３０年３月３１日までは財政課）窓口での閲覧（共に本庁舎３階）

③ 各市民センター等での閲覧（市内１０か所）

④ 市ホームページでの閲覧

⑶ 意見の提出方法

住所、氏名、電話番号を記入して、持参、郵送、ファクス、電子メールで提出（様式自由）

⑷ 意見の件数

１５件（１４人）

２　意見の内訳

⑴ 公共施設マネジメント全般に関する意見	・・・	１件
⑵ 総合管理計画における目標等に関する意見	・・・	１件
⑶ 陶芸館に関する意見	・・・	１３件
合　　計	・・・	１５件

３　意見の概要及び市の考え方と対応

(1) 公共施設マネジメント全般に関する意見【１件】

NO.	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
1	基本方針案には、三田市の将来像を描いたビジョンが見られない。 三田市は大都市近郊の田舎がキーワードではないか。優れた田舎環境を持つ三田にも関わらず、将来性を悲観した計画となっている。行政機関の怠慢を感じます。 将来のビジョンなしでの公共施設マネジメントは成り立たない。再検討が必要と思う。	市では、「ひと・まち・自然が輝く三田」を目指して、総合計画に基づき様々な取組みを進めているところです。 昭和 50 年代後半から平成初期にかけての北摂三田ニュータウン開発などにより、多くの公共施設を整備し維持してきましたが、これから人口減少が見込まれるなか、このままでは今ある全ての公共施設を適切に維持していくのが難しくなることが予想されます。市として、将来の市民生活に必要不可欠な施設を優先に、適切に維持管理し、市民の皆様に安全かつ快適に利用して頂くため、基本方針において個別施設の方向性等について定めています。 市民の皆様にとって「住みたいまち住み続けたいまち三田」であり続けるよう、引き続き取り組んでまいります。

(2) 総合管理計画における目標等に関する意見【１件】

<table>
<tr><th>NO.</th><th>意見の内容（要約）</th><th>市の考え方と対応</th></tr>
<tr><td>2</td><td>
施設の最適化と有効活用、並びにライフサイクルコストの縮減を掲げている。方針（案）での施設毎の市負担額の順位は下記の様に計算できる。市負担額を見ると、1施設で1千万円を超える上位5つの施設は、方向性が「現状維持」あるいは「別の手法にて在り方検討」となっている。一方、「淡路風車の丘」「陶芸館」「青野ダム記念館」については、廃止・売却等の方向性を示しているが、これらは何の根拠でもって廃止・売却等と定めようとしているのか全く理解できない。
施設判断基準として三つの基準を記しているが、これらの基準の根拠も納得できない。基準①の年間1万人未満は、該当施設の規模や固有の性質は無視して勘案していない。基準②の市の負担額については、上位5件が不問同然であり、目標等に合致していない。
これらは　平成28年に実施した市民アンケート調査結果を参考としている様に見えるが、このアンケートは公共施設についてのごく一般的な意識調査結果であり、言い換えれば公共施設について税負担している市民の常識の意識結果である。各施設についての施設誕生理由・利用経緯・利用の詳細現状・今後の運営法や利用法等を加味したアンケートにすれば、異なった調査結果になったはずである。
このような（希薄な）現状認識でもって、さらに本来認識すべき費用負担の軽重を全く無視した内容でもってパブリックコメントを募るのはいかがなものか。基本方針策定の前に、現場の実地調査や利用者の声も聴くべきである。
上位5施設の検討をまず示し、その上で全体を再検討頂きたい。各施設には、誕生から今日までの歴史があり、伝統が生まれている。施設が廃止になれば、歴史と伝統が失われる。
廃棄・売却の方向性を示している施設については、もっと慎重な検討が必要である。
――　施設毎の市負担額の順位　――
<table>
<tr><th></th><th>施設名</th><th>市負担額(万円)</th><th>施設の方向性</th></tr>
<tr><td>1</td><td>総合文化センター</td><td>20,988</td><td>別の手法にて在り方検討</td></tr>
<tr><td>2</td><td>駒ケ谷総合体育館</td><td>6,168</td><td>現状維持</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ガラス工芸館</td><td>2,880</td><td>別の手法にて在り方検討</td></tr>
<tr><td>4</td><td>野外活動センター</td><td>1,584</td><td>一定条件のもと存続</td></tr>
<tr><td>5</td><td>城山体育館</td><td>1,088</td><td>現状維持</td></tr>
<tr><td>6</td><td>ふれあいプール</td><td>820</td><td>一定条件のもと存続</td></tr>
<tr><td>7</td><td>淡路風車の丘</td><td>669</td><td>廃棄・売却等</td></tr>
<tr><td>8</td><td>城山球場</td><td>633</td><td>現状維持</td></tr>
<tr><td>9</td><td>陶芸館</td><td>492</td><td>廃棄・売却等</td></tr>
<tr><td>10</td><td>青野ダム記念館</td><td>410</td><td>廃棄・売却等</td></tr>
</table>
</td><td>
公共施設には、施設ごとに設置の経緯や今日までの歴史があり、個々の施設についての特性もあります。
基本方針における施設判断基準については、公共施設についての市民アンケートにおいて、優先的に見直すべき施設として「①利用者数が少ない」「②特定の個人・団体が使用している」「③公共性が低い(民間でも運営できる)」施設が挙げられていることから、これらを踏まえて、文化・スポーツ・レクリエーション分野の施設に係る判断基準として、利用者数及び利用者1人当たりの市の負担額を設定しています。市としては、この市民の皆様からのアンケート結果を尊重していく必要があると考えています。
また、広く市民の皆様にご利用いただく施設という観点から、利用者数も勘案し、施設当たりの維持管理費総額の大小ではなく、利用者1人当たりの市の負担額を基準としています。
各公共施設の特性や歴史について、尊重をしていくことは大切です。総合文化センターや駒ケ谷総合体育館についても、それぞれの特性やニーズがあります。限られた財源を将来に向けて活用するため、広く市民の皆様にご理解頂ける公共施設マネジメントを進めていく必要があると考えています。
上記の点から、ご指摘の3つの施設については廃止・売却の方針としていますが、個々の施設の特性を考慮し、青野ダム記念館については、避難所機能や青野ダム建設の歴史の伝承等に関して整理を行っていきます。また、青野ダム記念館及び淡路風車の丘については、優れた景観等を活かした地場産レストランへの活用など、市の魅力アップに繋がる取組みについても検討を進めているところです。新陶芸館については、譲渡等に際して陶芸教室の実施を条件とすることを考えるなど、その施設が設けられた経緯やご利用の状況にも配慮していきたいと考えています。
</td></tr>
</table>

(3) 陶芸館に関する意見【１３件】

NO.	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
3	これからの永い人生、健康的に、地域との関わり方など、どのように生活をしていくかを考えている。そのような中、好きな日本酒の器を自分で創れたらと思い陶芸館に通っている。器を創る楽しみだけでなく、その時間、完全にそれに集中し、仕事を含め全く他のことから解放され、健康的な時間を過ごしている。 市の財政負担があることも十分理解できる。また、一般の陶芸教室の月謝からして安すぎると思う。今の料金を倍にしても構わないので、是非存続してもらいたい。教室に通われている方の経済的負担への抵抗があるかもしれないが、料金を倍にしても市場相場からは安く、参加者は減らないのではないか。 一度、教室に通っている方へ料金に関するヒアリングをしてはどうか。 陶芸教室の生徒の作品の販売を行い、売り上げの一部を施設費に充てることは出来ないか。	陶芸館は、創作活動の場、生涯学習の場としてこれまで皆様に親しまれ、ご利用を頂いているところです。 ご意見にありますように、利用料金の増額や作品の販売をすることで一定の収支改善は見込めますが、現在保有する全ての公共施設を今後も同じように維持することは、市のこれからの財政状況等を考えるなかでは、難しいのが現状です。このため市では、福祉や教育等の市民生活にとって必要不可欠な施設を優先に、将来世代へと繋いでいくため、やむを得ず一部施設について廃止・売却の判断を行い、公共施設としての新陶芸館は廃止することとしています。 利用者の方々のご意見を聞くなかで、運営主体が変わっても陶芸活動が続けられるよう希望されるお声もあったことから、譲渡等に際しては陶芸教室の実施を条件とすることも考えており、従来と全く同じとは言えませんが、市の施設としての新陶芸館廃止後も陶芸を行う場が確保されるよう配慮してまいりたいと考えています。 また規模は異なりますが、三輪明神窯史跡園やさんだ・藍市民センターには、陶芸が行える施設として窯等も設置しており、引き続き陶芸に親しむための活動の場としてご利用頂きたいと考えています。
4	陶芸は脳の活動を活発にし、「リラックス効果」「ストレス解消」「集中力向上」「認知症・うつ病」に非常に効果的と言われ、リハビリにも使われている。 今後高齢化が進むなか、陶芸はますます必要とされていくと思う。陶芸館の存続を強く希望する。	陶芸館は、生涯学習の場としてこれまでも多くの方々に親しまれてきました。ご意見のとおり陶芸は脳の活動を活発にするとも言われ、陶芸療法としても活用されていると聞きます。 また、施設をご利用の皆様の貴重な交流の場としても活用を頂いているところですが、市が現在保有する全ての公共施設を今後も同じように維持することは、人口減少や少子高齢化などにより厳しい財政運営が予想されるなかでは難しいのが現状です。そのため市では、福祉や教育等の市民生活にとって必要不可欠な施設を優先に、将来世代へと繋いでいくため、やむを得ず一部施設について廃止・売却の判断を行い、公共施設としての新陶芸館は廃止することとしています。 しかしながら、譲渡等に際しては陶芸教室の実施を条件とすることも考えており、従来と全く同じとは言えませんが、市の施設としての新陶芸館廃止後も陶芸を行う場が確保されるよう配慮してまいります。
5	陶芸館は、多くの人とのコミュニケーションと生きがいの場として、幼子から高齢者まで年齢に関係なく、役割を十分発揮しているのではないか。陶芸館の存続をお願いする。	市では、魅力ある都市づくりの一環として、都市化の進むニュータウンと自然環境の豊かな農村地域の接点となり、市民のふれあいと交流の場とするために陶芸館を整備しました。ご意見にありますように、陶芸館は長い間、多くの人の交流の場として、生きがいづくりの一端を担ってきました。建設から四半世紀が経過し、都市と農村地域の相互理解も深まり、交流の場としての役割については、一定当初の目的も果たせたものと考えています。

NO.	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
		この先、市が現在保有する全ての公共施設を今後も同じように維持することは、厳しい財政運営が予想されるなかでは難しいのが現状です。このため市では、福祉や教育等の市民生活にとって必要不可欠な施設を優先に、将来世代へと繋いでいくために、やむを得ず公共施設としての新陶芸館を廃止するという判断に至りました。 しかしながら、譲渡等に際しては陶芸教室の実施を条件とすることも考えており、従来と全く同じとは言えませんが、市の施設としての新陶芸館廃止後も陶芸を行う場が確保されるよう配慮してまいりたいと考えています。
6	市民の誰もが陶芸館の存在に気付き、大いに活用出来るチャンスを認識する。例えば、近隣都市への働きかけや高校・大学への働きかけなどの使い方改革など、市政の幅広い智恵と努力で、三田市の誇りである陶芸館となるのではないか。 言葉だけでは言いつくせない無形のものにも目を向けて、数字だけでは計り知りえないことを陶芸館の扉を閉めるという前に行政の方々の勇気ある行動を見せて頂きたい。	長い間、陶芸館が皆様に愛され、交流の場や生涯学習の場として活用頂いていることは、陶芸館の設置目的からも大変有難いことだと考えています。 陶芸に限らず、音楽やスポーツなどには人を魅了するものがあります。しかしながら、市が現在保有する全ての公共施設を今後も同じように維持することは、これからの財政状況等を考えるなかでは、難しいのが現状です。そのため、市民1人当たりの市の負担額や施設の利用状況等を踏まえ、福祉や教育等の市民生活にとって必要不可欠な施設を優先に、将来世代へと繋いでいくため、やむを得ず一部施設について廃止・売却の判断を行いました。 公共施設としての新陶芸館は廃止としますが、三輪明神窯史跡園やさんだ・藍市民センターにおいて、引き続き陶芸に親しんで頂きたいと考えています。また、廃止後の施設を民間へ譲渡等をする際には、民間の視点からの幅広い活用を期待するなかで、陶芸教室の実施を条件とすることも検討してまいります。
7	市の財政と、人口の減少、社会保障費や施設維持・更新経費の増大などを理解した上で、その対策の基本的な考え方に対して、不採算施設のみに着目されている感があり、また、陶芸館の役割が以下の点において過少評価されているのではないか。 ① 利用者が年間1万人を下回り、また、市からの持ち出しの指摘がある。努力によってカバーできる程度の規模ではないか。我々にとっては突発的な発表で驚いている。 ② 全国的に有名な三田青磁は三田の誇るべきもの。陶芸活動は歴史と文化を受け継ぐ使命がある。 ③ 高齢化の進む中で、三田市は学びの充実と福祉の街を目指している。陶芸の創作活動は精神発達や情操、心の癒しの上でも大きな効果を上げている。 ④ 陶芸教室の修了者で作られた「三田陶遊会」は今年25週年を迎えた。年に数回行われる作品展には市内外から多くの来場者があり、三田の陶芸力のPRに努めている。	人口減少や高齢化などによる市税収入の減少と合わせ、社会保障費や公共施設の維持管理費の増大が予想されるなか、公共施設の在り方についても見直しを行っていく公共施設マネジメントの必要が生じています。 ご意見にあります利用者数の考え方についてですが、公共施設に関する市民アンケート結果において、「利用者数が少ない」「特定の個人・団体が使用している」等について優先的に見直すべきとのご意見を多く頂いています。これらを踏まえて、市民の皆様が10年間で1人1回はご利用頂いている施設であることを目安として、年間1万人を利用者数の基準として設けたところです。 三田青磁については、歴史と伝統を大切に継承していく必要があることから、三輪明神窯史跡園をその重要な拠点として位置付けており、今後は旧陶芸館を三輪明神窯史跡園の補完施設として活用していきたいと考えています。 陶芸活動が精神発達や情操等に大きな効果を上げているとご意見にありますように、陶芸には様々な魅力があります。これまでも三田陶遊会の方々が制作された様々な作品を展示し、陶芸の魅力発信に取り組んで頂いていることは感謝いたします。

NO.	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
	⑤ 基本方針案には、三輪明神窯史跡園を含め、類似施設について書かれているが、実技指導やサークル活動をする充分なスペースや設備を備えているものではない。三輪明神窯史跡園は史跡園として青磁中心に特化した活動をすべきと考える。 ⑥ 医療費など将来の見返りを予見して、健康な高齢者をつくる上でも、このような施設は、基本的に市の財政が苦しくても残すべきと考える。 ⑦ 陶芸教室で陶芸技術を学び、三田陶遊会のメンバーとして 20 年近く所属している。創作活動は生きがいの原点であり、このようなニュースを聞くことは残念で仕方がない。	規模等は異なりますが、三輪明神窯史跡園やさんだ・藍市民センターは、現在も陶芸等の様々な創作活動にご利用頂いていますので、市民の皆様には、引き続きご活用頂きたいと考えています。 新陶芸館については、今後の財政状況等を考えるなかでは、やむを得ず廃止することとしておりますが、新陶芸館の民間への譲渡等に際しましては、陶芸教室の実施を条件とすることを考えており、市の施設としての新陶芸館廃止後も陶芸を行う場が確保されるよう配慮してまいります。
8	1 三田市の未来像である「成熟のまちづくり（三田市に住みたい）」に反する方向 ・近隣他市にない、三田市らしい誇れる公共施設である。 ・広く市民文化取得の機会（設置場所）として将来に渡って大切に残すべき公共施設の一つである。 2 陶芸館の利用者数について ・6 千人が少ないのか。1 万人以上だったら良いのか。基準値人数はどうして決めるのか。過去の利用者数だけの判断で廃止・売却することは非常に短絡的である。 3 広報活動の活性化・・・陶芸館の存在を多方面にもっと PR する ・小学校課外授業として当施設の活用検討。地元の子供たちにも陶芸（創作）学習機会に利用。 ・市民への PR は勿論、兵庫県や近隣他市と連携を図り当施設の PR を行い、利用者増加活動。 ・「藍市民センター創作室」や「さんだ市民センター工芸科学室」こそ廃止して、当施設に集約すべき。 4 利用者負担の観点から使用料金の増額を試算検討 ・利用者 1 人当たり市の負担額が多いのであれば、上記の事を実施した上、利用者に対して負担額アップを試算すべき。 5 当施設について「プロジェクトチーム」はあるのか。	陶芸館は、近隣にはない陶芸に特化した施設であります。ただ、それに見合った利用者数ではないのが現状であり、基本方針策定に当たり、利用者数、利用状況、収支状況等について関係部署において検討をした結果、見直さざるを得ないと判断したものです。 ご意見にあります利用者数の考え方についてですが、公共施設に関する市民アンケート結果において、「利用者数が少ない」「特定の個人・団体が使用している」等の施設について優先的に見直すべきとのご意見を多く頂いています。これらを踏まえて、市民の皆様が 10 年間で 1 人 1 回はご利用頂いている施設であることを目安として、年間 1 万人を利用者数の基準として設けたところです。 これまでも連続コースの陶芸教室に加え、気軽に参加できる 1 日陶芸教室も開催し、市広報紙への掲載や市民センターでの案内チラシの設置など、PR について取り組んできました。利用料金の増額や新たな市場開拓により、一定の収支改善は見込めますが、市が現在保有する全ての公共施設を今後も同じように維持することは、今後の財政状況等を考えるなかでは難しいのが現状です。このため市では、福祉や教育等の市民生活にとって必要不可欠な施設を優先に、将来世代へと繋いでいくための取組みを進めています。 なお、さんだ・藍市民センターには、陶芸だけでなく市民活動を支える設備等も整備されていることから、様々な活動にご利用頂けるものと考えています。 今回、市民 1 人当たりの市の負担額や施設の利用状況等を踏まえ、やむを得ず公共施設としての新陶芸館は廃止することとしますが、新陶芸館の民間への譲渡等に際しては、陶芸教室の実施を条件とすることも考えており、引き続き陶芸を行う場が確保されるよう配慮してまいりたいと考えています。

NO.	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
9	市の施設としては立派な陶芸館を廃止する事は本当に残念に思う。市の文化を衰退させるようにも思う。 三田には歴史的に有名な三田青磁があり、今でもそれを維持する活動があり、作る人がいて、作陶する場所が陶芸館でもある。そのためにも絶対に残さなければいけない大切な建物だと強く思う。	三田青磁については、引き続き歴史と伝統を大切に継承していく必要があります。そのため、三輪明神窯史跡園をその重要な拠点として位置付けており、今後は旧陶芸館を三輪明神窯史跡園の補完施設として活用していきたいと考えています。 やむを得ず公共施設としての新陶芸館は廃止しますが、施設の民間への譲渡等に際しては陶芸教室の実施を条件とすることも考えており、市の施設としての新陶芸館廃止後も陶芸を行う場が確保されるよう配慮してまいります。また、さんだ・藍市民センターでは、現在陶芸等が行える施設として窯等も設置しており、引き続き陶芸活動にご利用頂きたいと考えています。
10	「類似施設として、藍市民センター創作室、さんだ市民センター工芸科学室がある」となっているが、この２つの施設は「類似」とは言えない。 陶芸館がなくなるのはとても残念である。三田陶遊会のメンバー全ての共通の思いである。前向きな話し合いの機会を持っていただきたい。	さんだ・藍市民センターは本格的な施設ではありませんが、陶芸に親しんで頂き、陶芸の良さを感じて頂く施設としては適切なものと考えています。 新陶芸館については、これからの市税収入の減少や、福祉及び教育さらには公共施設の維持管理に必要な支出が増加することを考えると、市が現在保有する全ての公共施設を今後も同じように維持することは難しいため、やむを得ず廃止・売却の判断に至りました。 ただ、公共施設としての新陶芸館は廃止することとしますが、利用者の方のご意見を踏まえ、譲渡等に際しては陶芸教室の実施を条件とすることも考えており、廃止後も陶芸を行う場が確保されるよう配慮してまいりたいと考えています。
11	陶芸館・新陶芸館は陶芸専門の施設として作られており、藍市民センター創作室、さんだ市民センター工芸科学室、三輪明神窯史跡園と比べて設備が一番充実しており、設備を集約するのであれば、陶芸館・新陶芸館に集約するのが一般的な考えである。仮に三輪明神窯史跡園へ機能を集約するとして、陶芸館と同様の設備を作るには、土地の確保と建物の建築が必要である。 陶芸館・新陶芸館に対して将来大規模修繕工事をして使用するか、三輪明神窯史跡園に新たに投資をするかを考える必要がある。いずれにしても、新設備ができるまでには相当な時間が掛かる。それまでは現在の陶芸館・新陶芸館を継続して利用できるよう希望する。 陶芸館・新陶芸館の赤字については、利用料金の値上げ、運営方法の見直しにより解消できる。今後の利用者の増加方法については、小学校、中学校へ出張し、陶芸体験をさせることで、陶芸に興味を持ってもらうことにより、将来の陶芸人口を増やす必要がある。	陶芸館は、近隣にはない陶芸に特化した施設であります。ただ、それに見合った利用者数ではないのが現状であり、基本方針策定に当たり、利用者数、利用状況、収支状況等について関係部署において検討をした結果、見直さざるを得ないと判断したものです。 ご意見にありますように、利用料金の増額や新たな市場開拓により、一定の収支改善は見込めますが、この先、人口減少などにより市税収入が減少する一方で高齢化に伴い支出が増加することが予想されています。そのなかで、過去に人口増加と経済成長が続くと見込んで建設し、維持してきた公共施設を、今後も全て同じように維持することは難しいのが現状です。 このため市では、福祉や教育等の市民生活にとって必要不可欠な施設を優先に、将来世代へと繋いでいくため、やむを得ず公共施設としての新陶芸館は廃止することとしています。しかしながら、譲渡等に際しては陶芸教室の実施を条件とすることも考えており、廃止後も陶芸を行う場が確保されるよう配慮してまいります。 三輪明神窯史跡園については、三田青磁の重要な拠点として位置付けておりますが、ご指摘のように敷地も狭く、設備等の確保に課題もございますので、ご意見も参考にさせて頂き、今後は三輪明神窯史跡園を補完する施設として旧陶芸館を活用していきたいと考えています。 また、さんだ・藍市民センターには、陶芸だけでなく市民活動を支える設備等も整備されていることから、陶芸のみならず様々な活動にご利用頂けるものと考えています。

NO.	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
12	1　5ページの左記の理由欄の記述について ①「延床面積が大きく、今後維持修繕費が高額となる」旧館は冷暖房設備もなくプレハブ構造ゆえに、廃却やむなし、と思うが、新館はまだ新しく頑丈な建屋のため、利用者の多さを考えると、廃却は早計であり、廃止には反対する。 ② 類似施設として藍市民センター創作室、さんだ市民センター工芸科学室がある。三輪明神窯史跡園は史跡としての価値はあるが、三田の伝統を伝えるには、史跡園が有している作陶の設備は極めて貧弱である。陶芸館であれば三田焼きの伝統を十分に伝える設備を有している。また藍市民センター創作室や、さんだ市民センター工芸科学室は、設備の規模・質ともに陶芸館のとって代われる内容では決して無い。陶芸館は、陶芸を教えるノウハウも素晴らしく整っていて、近隣自治体には無い。三輪明神窯史跡園も同様に、陶芸館に代わることはできない。陶芸館は三田市が堂々と胸を張って、その存在を誇ることのできる施設・組織である。陶芸館の廃止には反対する。 2　利用者数が0.6万人で「×」マークになっているが、陶芸館の設備状況から見て利用者定員（比較的快適に利用できる）は一日 20人程度である。陶芸館の　開館日は300日程度であり、一年間の利用者数は 6,000 人が限度と思う。しかし判断基準には 0.6 万人で「×」マークが入っている。毎日ほぼ定員に近い利用者がいる施設を、年間492万円の市負担額でもって廃止・売却等の方向性とするのは過ちである。このような金額のみで廃止・売却とする本件に対する市担当者の詳細意見を伺いたい。	三輪明神窯史跡園は、三田青磁を伝承していく史跡園として、社会教育上重要な施設と位置付けており、今後はご意見も参考にさせて頂き、旧陶芸館については三輪明神窯史跡園の補完施設としての活用を考えています。また、さんだ・藍市民センターは、本格的な施設ではありませんが、陶芸に親しみ陶芸の良さを感じて頂く施設としては適切なものと考えています。 陶芸館は、近隣にはない陶芸に特化した施設であり、ピーク時には利用者数が1万人を超えていました。長い間、創作活動の場として皆様にご利用頂いてきましたが、近年利用者も減少してきています。このため基本方針策定に当たり、利用者数、利用状況、収支状況等について関係部署において検討をした結果、施設の在り方について見直さざるを得ないと判断したものです。 ご意見にあります利用者数の考え方についてですが、公共施設に関する市民アンケート結果において、「利用者数が少ない」「特定の個人・団体が使用している」等について優先的に見直すべきとのご意見を、多くの市民の方から頂いています。これらを踏まえて、市民の皆様が10年間で1人1回はご利用頂いている施設であることを目安として、年間1万人を利用者数の基準として設けたところです。 市が現在保有する全ての公共施設を今後も同じように維持することは、これからの財政状況等を考えるなかでは困難なことから、福祉や教育等の市民生活にとって必要不可欠な施設を優先に、将来世代へと繋いでいくため、やむを得ず公共施設としての新陶芸館を廃止することとしました。 しかしながら、新陶芸館廃止後の施設の譲渡等に際しては、陶芸教室の実施を条件とすることも考えており、市の施設としての廃止後も陶芸を行う場が確保されるよう配慮してまいります。

NO.	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
13	施設の見直しや費用の削減はかなり以前から少子高齢化、人口減少と言われているにも関わらず、何の施策も取らず今、起こったかのように大問題としているのは疑問を感じます。陶芸館で長年（15年）陶芸を趣味に定年後の生きがいとして楽しんでいる者にとって閉館の知らせは身を切られるほどに辛い事です。陶芸は文化であります、長年培われてきた三田市の陶芸文化が無くなるのは三田の誇りを無くし、面白味の無い市として余計に人口減少に拍車がかかるかも知れない。 陶芸館の実情は理解したが、受講生が減少した時に何か増やす手立てを実行されたか、陶芸教室案内は、広報の伸びゆく三田に何行か載るだけで誰の目にも止まらない状態が続いている。我々は市民センター等で会員の展示会を毎年行い、毎回2百人近くの来場者があり、三田の陶芸館で活動している。他市からの来場者もあり、決して陶芸に無関心ではなく興味を持っている人は多くいると思っている。市長の挨拶で陶芸を趣味に持っている人は常に熱心で第二の人生を楽しんでいる事を理解して頂いているので陶芸館の存続に期待している。 三輪明神窯史跡園を三田市の観光施設として対外にアピールするのであれば現状の場所では、まず無理である。史跡は史跡として残し、陶芸館を三輪明神窯史跡園の付帯施設として、市外の人や、インターネットで三田青磁を PR して海外の観光客に青磁の陶芸体験をして貰えれば三田にもインバウンドが来訪すると考える。受講者が減る事を心配するよりもっと SNS を利用して受講生を増やして儲ける必要がある。 ネットで調べると近隣の市町村で公立の陶芸教室はほとんど有りません。陶遊会には宝塚市や尼崎市、神戸市からの会員も居ます。私設の陶芸教室に通うと陶芸館の何倍もの費用が必要になり、三田陶芸館のような処を探している陶芸ファンは居ます。近隣の市町村に働きかけて、三田陶芸館で陶芸をして貰えれば、他市は金をかけずに文化施設を持つのと同じことになり、市民サービスが可能になる。ただ交通の便については何かの方法を考える必要はあると思う。 陶遊会では各市民センターで展示会を行ったり、本庄祭では陶芸品の格安販売等を行って、ふれあいと創造の里の陶芸館で活動していることをアピールしている。今後はもっと積極的に例えばボランティア活動として、高齢者施設とかを訪問して簡単な作品作りを指導すれば少しは市民の皆様にアピールできるのではと考える。	陶芸館はこれまで長年に渡り、陶芸を愛する方たちに支えられてきました。陶芸館について、より良い活用に繋がる効果的な結果が得られないなかで、基本方針における判断基準により、廃止・売却の判断となったことについては、陶芸館に愛着を持ち活用頂いている皆様に対して大変心苦しく思います。 三田陶遊会の方々が制作された様々な作品を展示し、陶芸の魅力発信に努めてこられたことに感謝いたします。これまでも、三田市において陶芸は広く皆様に親しまれてきました。これらを絶やすものではなく、規模等は異なりますが、三輪明神窯史跡園やさんだ・藍市民センターでは、現在陶芸等が行える施設として窯等も設置しており、引き続き陶芸活動にご利用頂きたいと考えています。 ご意見にありますように、新たな市場開拓により、一定の収支改善は見込めますが、この先、人口減少などにより市税収入が減少する一方で高齢化に伴い支出が増加することが予想されています。そのなかで、過去に人口増加と経済成長が続くと見込んで建設し、維持してきた公共施設を、今後も全て同じように維持することは難しいのが現状です。 このため市では、基本方針において一定の基準を設けて、新陶芸館を含む一部の公共施設についてやむを得ず廃止・売却とする判断に至りました。 これにより新陶芸館は公共施設としての役割は終えることとなりますが、その譲渡等に当たっては引き続き陶芸を行う場が確保されるよう配慮してまいります。 また、三輪明神窯史跡園については、三田青磁を伝承していく史跡園として、社会教育上重要な施設と位置付けており、今後はご意見も参考にさせて頂き、旧陶芸館を三輪明神窯史跡園の補完施設として活用していきたいと考えています。

NO.	意見の内容（要約）	市の考え方と対応
14	施設利用者が年間１万人未満、市民負担額500円という切り口は理解できますが、類似施設として、三輪明神窯史跡園、さんだ市民センター、藍市民センターが有り、これらの施設との統合および総合的利用によって、陶芸館を活かし存続して欲しいです。なお、高齢者の生きがい施設として、また、地区活性のためにも、相野地区の陶芸館が必要です。 三輪明神窯史跡園は道路が狭く、駐車場が少なく、施設発展を阻害している。充分な対策が必要です。	ご意見にあります三輪明神窯史跡園や、さんだ・藍市民センターは、規模は異なりますが、現在陶芸等が行える施設として窯等も設置しており、引き続き陶芸活動にご利用頂きたいと考えています。 また、三輪明神窯史跡園は、三田青磁を伝承していく史跡園として、社会教育上重要な施設と位置付けておりますが、ご指摘のように周辺道路や駐車場の確保に課題もございますので、旧陶芸館を三輪明神窯史跡園の補完施設として活用していきたいと考えています。 ただ、人口減少や少子高齢化などにより厳しい財政運営が予想されるなかでは、市が現在保有する全ての公共施設を今後も同じように維持することは難しいのが現状です。このため市では、福祉や教育等の市民生活にとって必要不可欠な施設を優先に、将来世代へと繋いでいくため、やむを得ず公共施設としての新陶芸館は廃止することとしています。 しかしながら、譲渡等に際しては陶芸教室の実施を条件とすることも考えており、従来と全く同じとは言えませんが、市の施設としての新陶芸館廃止後も陶芸を行う場が確保されるよう配慮してまいります。
15	1.『田園・文化都市三田』のイメージ路線踏襲の重要性再認識 施設の創建時は人口増加も進み、市としては発展途上にあり、文化面を重要視して関心も大であった。現在は財政も逼迫し、整理したいのはある程度理解できる。しかし、施設毎の年間参加者や、経済面での良否で施設の功罪を論じるのは拙速にして、市の文化面の将来の軽視ではないかと考える。陶芸に限らず、文化面も大切な要因の一路線であることを市として再認識して頂くと幸甚です。 2.管理・運用・企画面での更なる改善への一考察 現在、市当局は上記の各面に於いて改善の努力をしておられることは十分に承知しております。負の要因として、市財政の悪化、設備機材の老朽化更新等は陶芸館の運営継続を望む者にとっても状況は厳しいとは思います。厳しい状況だからこそ、更なる改善の道を考えるべきであり、廃止ありきで進めてはなりません。文化・芸術の薫りは大切に守るべきであり、市内に散在する陶芸関係の施設とは異なる性質を有します。	歴史や伝統を引き継いでいくことは、まちの活力の向上や、市の未来を担う人を育むため大切な要因であります。三田には窯跡も数多く発掘されており、江戸時代に発展した三田青磁など、三田において陶芸は生活のすぐそばで、広く親しまれてきました。 今後、市では人口減少や少子高齢化などにより厳しい財政運営が予想されています。そのなかで、過去に人口増加と経済成長が続くと見込んで建設し、維持してきた公共施設を、今後も全て同じように維持することは難しいのが現状です。このため、福祉や教育等の市民生活にとって必要不可欠な施設を優先に、将来世代へと繋いでいかなければなりません。 そのなかで、民間でもそのサービスの提供が行える選択性の高い施設については、今後の運営維持管理に係る市民１人当たり負担額や施設の利用状況等を踏まえ、やむを得ず基本方針において新陶芸館を含む一部施設の廃止・売却を定めたところです。 今後は、三輪明神窯史跡園を、三田青磁を伝承していくための社会教育上重要な施設と位置付け、旧陶芸館を補完施設として活用を図るなかで、陶芸の普及に努めていきます。